

つるし飾り作り



金魚袋

500年ほど前に中国から渡来し、江戸中期には庶民の間で大流行。今回は、明治時代の型紙で作ります。



三角

その形から薬袋やうろこの意。厄よけ。



くくり花



わらし

日時 **3月10日(木)**

1回目 9:30 ~ 11:30

2回目 13:30 ~ 15:30

場 所：川内歴史資料館 研修室

今日の予定

- 1 つるし飾りの歴史やモチーフに込められた思いを学ぶ
- 2 金魚袋を作る
- 3 三角に鈴を縫いとめる
- 4 わらしのちゃんちゃんこを作って着せる
- 5 モチーフをつないで、釣台に吊るす



つるし飾りの歴史

つるし飾りとは、布で手作りした縁起物を紐でつなぎ、女の子の初節句に飾り、健やかな成長を祈ったものです。「つるし雛」とも呼ばれ、由来や歴史的背景、文献等が残っていることから日本三大つるし飾り(詳細は次ページ)が発祥の地とされています。これらの地域では、女中や裕福な家庭の女性が香袋(かおりぶくろ)や琴爪(ことづめ)入れ*1などを作っていたのが、やがて庶民にも伝わりました。モチーフには、延命長寿、無病息災、良縁、安全といった子どもの幸せを願う祈りや思いが込められています。

つるし飾りの始まりは江戸時代からと伝えられていますが、庶民の飾りは奉納や無事成長したのちに焚き上げ(焼却)されることがほとんどで、酒田の豪商に伝わる傘福のほかは、明治のものがわずかに残るのみです。一時期、忘れ去られたつるし飾りの風習は、地域で作られる作品が展示されるなど、現在、少しずつ目に触れる機会が増え、子どもや孫のお祝いに手作りする方も増えてきています。

現代のつるし飾りは、伝統手工芸の形を残しつつも、趣味で自由に楽しめる方によってアレンジされ、飾りの個数も様々ですが、割り切れる偶数を避け、3、5、7、9などの奇数で組まれることが多いようです。

*1 香袋や琴爪入れ モチーフの名前に「袋」とつくのはその名残



ちりめん細工の歴史

江戸時代後期、裕福な女性たちが縮緬(ちりめん)の端切れを縫い、小さな袋などを縫ったのが始まりで、「裁縫お細工物」と言われました。明治時代には女学校などでも教えられ人気がありましたが、大正から昭和の初めに洋装が一般的になると、手芸も西洋風のもものが好まれるようになりました。

1970年に日本玩具博物館が、古書市で『裁縫おさいくもの』(明治42年出版)を入手して、古作品の収集を始めました。1986年に展示したところ評判になり、勉強会が始まりました。また、名称をやさしく「ちりめん細工」と言い換え、1994年から出版物でも使われるようになり、手芸として定着してきました。

1998年に伊豆稲取での雛飾りに「雛のつるし飾り」が復活し、その後、全国で雛の季節にちりめん細工のつるし飾りが楽しめるようになりました。



ささ福飾り さつま町

近年、「ささ福飾り」と呼ばれるつるし飾りが、さつま町の商店街や公共施設、温泉施設に飾られています。初市*2 には、商工会の2階などで作品の展示も行われます。これは、NPO奥薩摩探検隊が「女性だけで町を盛り上げたい。商店街を彩るものが何かないだろうか。」と地域活性化や町おこしとして発案・研究し、さつま町商工会が中心となって始めたもので、10年が経ちます。

*2 初市 2月7日にさつま町で開かれる初市(盈進小学校前の通り)は、紫尾や鶴田から多くの方々が集まる大変賑やかなものでした。





日本三大つるし飾り

さげもん 福岡県柳川市

竹の輪に小まり24個と細工物25個を交互に7個つないだものを7本下げ、中央に7色の糸の大まり2個を下げます。足すと51となり、人生50年と言われた江戸時代に1歳でも長生きしてほしいとの願いが込められています。

女の子の幸せを祈って祖母、母、親戚、近所の人たちによって作られました。



画像提供 一般社団法人柳川市観光協会

雛のつるし飾り 伊豆稲取(静岡県賀茂郡伊豆町稲取)

伊豆国(いずのくに)は半島という地形と、都の交通路から外れ隔離が容易であることから、古くから政治犯の流刑地*3でした。流刑されたみやこ人により、雅(みやび)な都の文化・風習が多く伝わりました。

雛のつるし飾りの起源は江戸後期からと言われ、女の子の初節句に親戚、近所の女性たちが手作りの飾りを持ち寄り祝う習慣で、昭和まで続いていました。

帽子型の紅白の輪の周りにひもを4本、中心に1本、計5本下げ、それぞれ11個の飾りを縫い付け、計55個、それをひな壇の両脇に一对(合計110個)で飾ります。モチーフは、桃、さる、三角、花、うさぎ、這い子など、50種類ほどあるようです。



画像提供 一般社団法人柳川市観光協会

*3 政治犯の流刑地 平清盛の命を受けた伊東祐親(いとうのすけちか)の監視のもと、平治元年(1159)の平治の乱で捕らえられた源頼朝はこの地に流刑された

傘福 山形県酒田市

江戸中期の酒田は、北前船(きたまえぶね)の西回り航路の要衝(ようしょう)として「西の堺、東の酒田」と言われるほど栄え、京都や大坂(現大阪)からモノや文化が伝わりました。

傘福の起源は、寺院の寄進*4 や山王祭の山車行列にあり、和傘の先に幕を張り、周りに飾りをつるします。これは、古来、傘の中には靈魂が宿り、神の依り代(よりしろ)*5 となると考えられていたため、安産やわが子の成長への願いを込めて、細工物を神仏に奉納する習慣がありました。



画像提供 一般社団法人酒田観光協会

大きく2種類あり、酒田の豪商本間家三代当主光丘が人形師に作らせた亀傘鉾は「宝ずくし型」、もう一つは女性の幸せを祈り、それにまつわる飾り付けです。決まった数はありませんが中国思想の影響で奇数がよいとされ、モチーフは、宝珠、小槌(こづち)、七宝、蔵のカギなど、豪商が栄えた町らしいもので、61種類があります。

*4 寄進 社寺等に物品や金銭を寄付すること

*5 依り代 神靈が出現するときの媒体となるもの。神靈の寄り付くもの。

金魚袋

赤い金魚は、元気に育つようにとの願いが込められています。500年位前に中国から渡来した金魚は、江戸時代には庶民の間にも金魚飼いが大流行しました。

古くからちりめん細工として作られている人気のモチーフのひとつです。この作品は明治時代の型紙を参考としたものです。

- 材料 ちりめん(赤) 15×30センチ
 ちりめん(柄) 10×15センチ
 ちりめん(黒・シロ・ピンク) 少々
 リリアン 35センチ
 糸、厚紙、化学綿、ボンド 適宜



材料と型紙



①型紙のとおりに布を切る

縫い代0.5センチつける(断ち切りは除く)
 ちりめんは伸びやすいため、大きめに布を断つ

②尾は、中表にして縫う

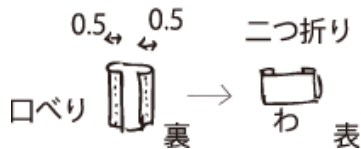
表に返す
 アウトラインステッチを施す
 (布と同じ色の糸、1本どり)
 *わかりやすいよう黒い糸でステッチしています

アウトラインステッチ



③口ベリ*6の両端を0.5ミリ折り、縫う

外表に半分折る
 *6 口ベリ モチーフをつるす紐通しのこと



④胴の背中を縫う(タック)

胴は、左右を二つ折り
 胴の「わ」部分に、2枚重ねた口ベリを仮止め



⑤ひれを縫い、表に返す



⑥口を縫う

ひもをはさんで、外表に二つ折り
両端を縫いとめる
ぐし縫い(イラスト参照)
糸を引き絞る、カーブにし、玉止め



⑦胴と頭を縫い合わせる

頭に口を縫いとめる(仮止め)



⑧胴と頭に、ひれを縫い合わせる

胴にひれを仮止め
尾と中表にあわせて縫う



⑨胴と腹(中表)を仮止め

尾を中に入れ、周囲を縫う



尾を表に折り返したところ

⑩表に返し、綿を詰める

返し口を縫いとめる



⑪頭に目を付ける

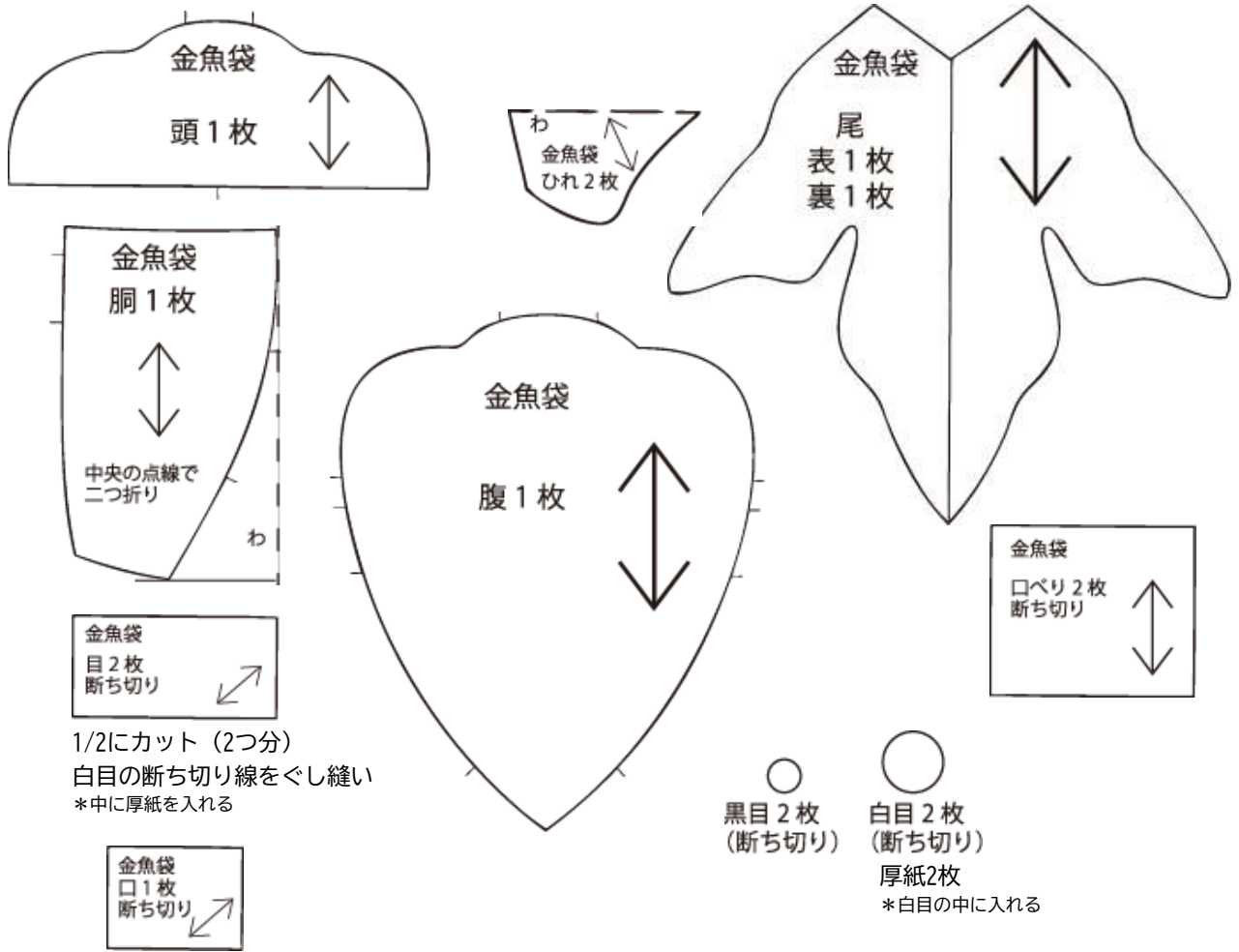
白目は、円形にぐし縫い。中に厚紙を入れ、糸を引き絞る
黒目は、白目にボンドで貼る



⑫背中の中口にリリアンを通す

飾り結び



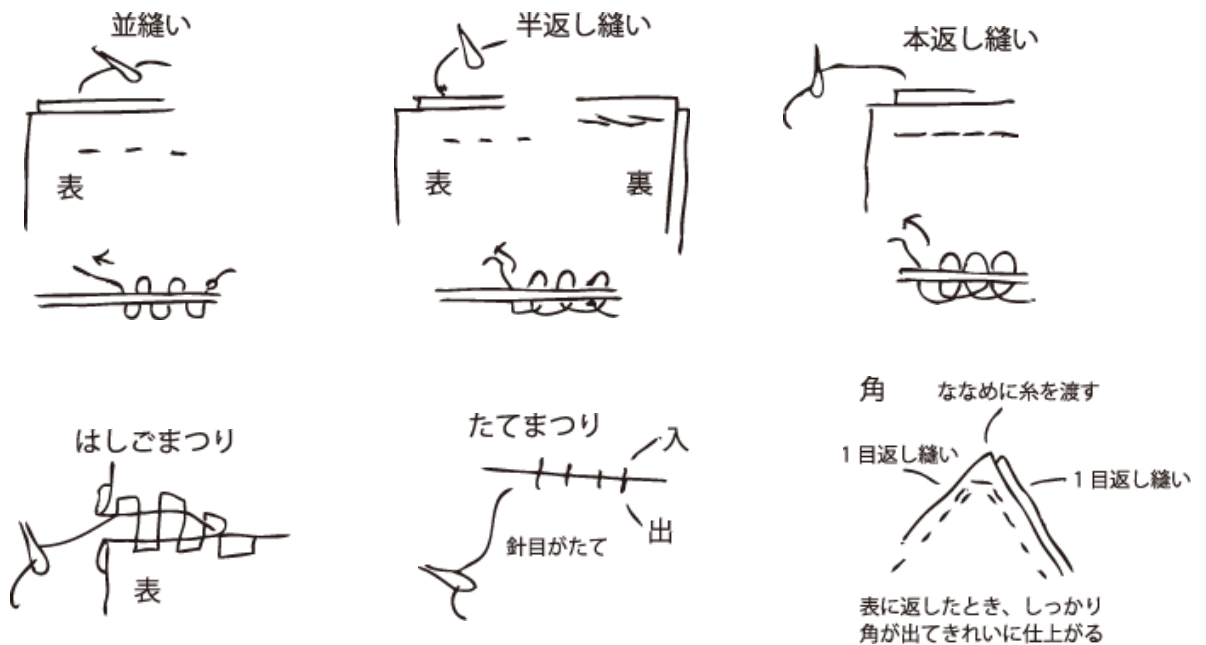


1/2にカット (2つ分)

白目の断ち切り線をぐし縫い

*中に厚紙を入れる

縫い方



わらし

子どもの元気な成長を喜び願う気持ちが込められています。

- 材料 頭・胴 ちりめん(白) 10×15センチ
 ちゃんちゃんこ表(着物の端切れ) 7×9センチ
 ちゃんちゃんこ裏(好み) 7×9センチ
 髪の毛、目 木綿糸(黒)
 白糸、化学綿 適宜



- ①型紙のとおり、布を切る
 頭、胴体は断ち切り、
 ちゃんちゃんこは縫い代込みの断ち切り

わらし(本体)

- ②胴・頭を縫い、表に返し、綿を詰める
 胴:半返し縫い
 頭:縫い代0.3センチ(断ち切り)、ぐし縫い
 綿はふんわりと、柔らかい程度に



細かな箇所は箸で返す



手足の先から、綿を詰める



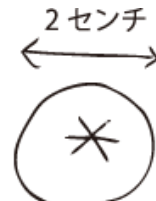
返し口を縫いとめる



縫い代は、内に入れて絞る



縫い代 0.3センチ
ぐしぬい



糸をぎゅっと絞る
最後は糸を渡す
玉どめ

- ③頭を胴に縫い付ける



④ 髪の毛をつける

後ろ頭の中心から放射状にストレートステッチを12本
(木綿黒糸2本どり)

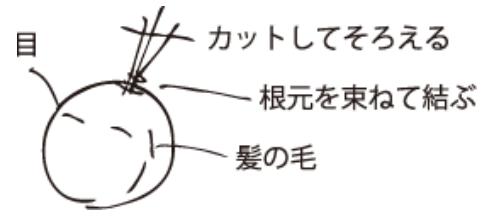
頭のとっぺんから、輪に刺す7~9回



⑤ 顔を刺繍する

目、髪の毛をストレートステッチ(木綿黒糸2本どり)

ピンクの色鉛筆で頬紅をさす



ちゃんちゃんこ

⑥ ちゃんちゃんこを縫い、着せる



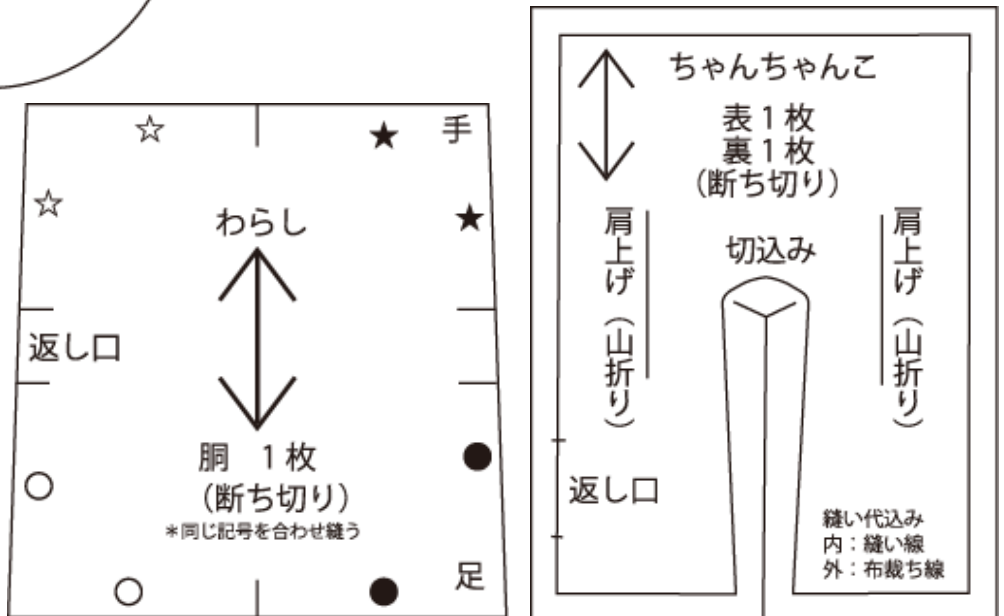
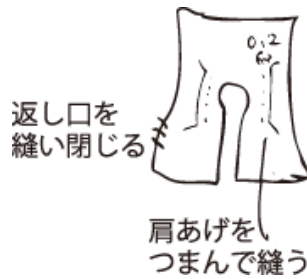
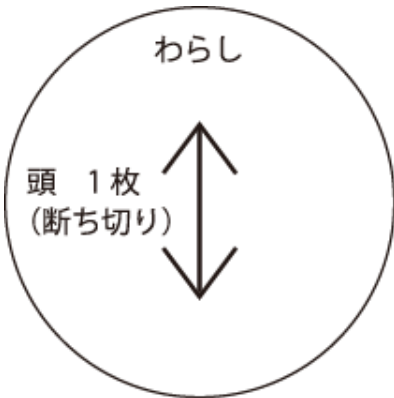
中表に縫う
角をカット



返し口から裏返す



肩あげを縫う



三角(さんかく)

その形から薬袋、香り袋、うろこ、富士山とも言われます。これは薬を三角に包装していたこと、厄年(やくどい)にうろこの柄を身に着けるとよいとのことからで、厄除けとして飾られます。組み立てるとどんな飾りにも合うシンプルなモチーフです。



材料 ちりめん(赤) 8×8センチ

飾り鈴 2個

赤糸、化学綿 適宜

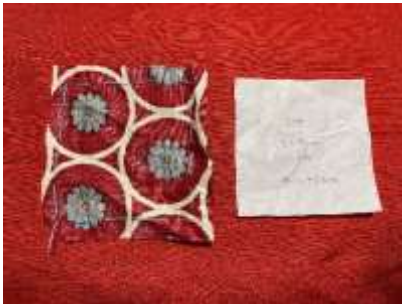
*(2色のとき)

ちりめん(赤) 8×4センチ 2枚

①縫い代をつけて布を切る
わかりやすいようしつけ糸で印をつけています

②中表に、対角線で折り縫う
返し口を残す(半返し縫い)

③返し口から表に返す

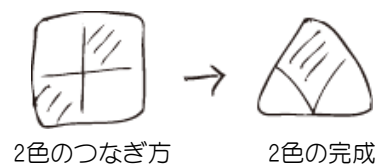
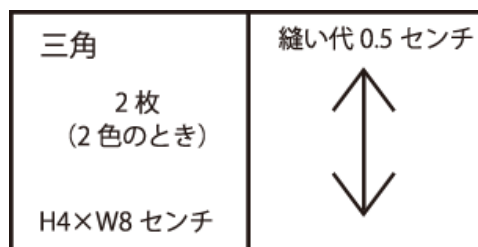
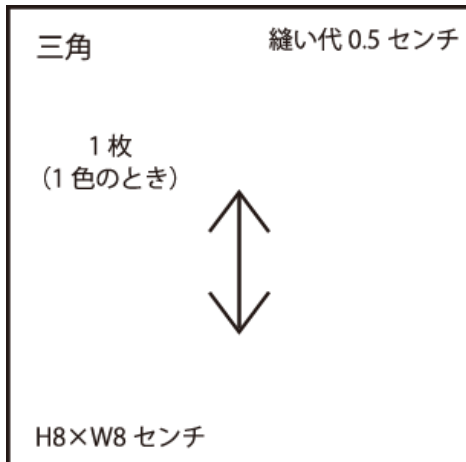


④綿を詰める



⑤返し口を縫い閉じる

⑥鈴を縫いつける



くくり花

花には、花のようにかわいくなるようにとの願いが込められています。くくり花は、モチーフの間に入れる小さな飾り物です。布色を変えたり、2つ縫い合わせた「まり」、7つ組み合わせた「ぼんぼり」にアレンジできます。

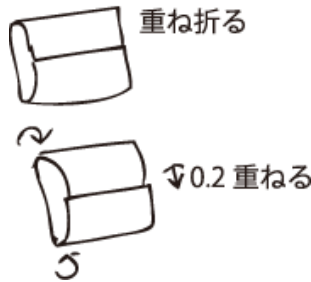
材料 ちりめんなど 6×6センチ
糸、化学綿 適宜



まり
2つ組み合わせ



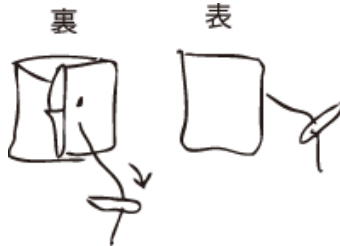
- ①裏にした布に綿を置く
- ②両側を中央に向け 重ね折る
- ③針目が出ないように、1針すくう 糸は2本どり
- ④重ねたまま、端に1針



- ⑤折り曲げ、糸を絞める 反対の端にも1針



- ⑥正方形にたたみ、1針すくう 表に針目を出さない

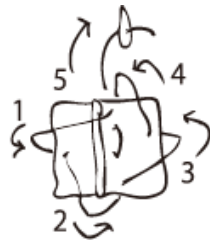


- ⑦裏から表に1針だす



辺の中心に1針

- ⑧4辺とも同じようにぐるりと糸をかける



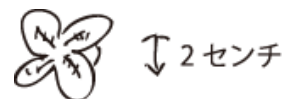
4辺に針を入れる

- ⑨糸をぎゅっと絞る 4弁の花になるよう、形を整える



4辺の最後と対角の外側から1針糸を渡す しっかり糸を絞り 玉止め

- ⑩完成



4針入れたところ

くくり花
(断ち切り)
6×6センチ

↑↓



ちりめん

表面に凹凸(おとつ)のある「しぼ」(縮み)のある布地。縦糸に撚(より)をかけていない糸、横糸に強い撚りをかけた糸を使い、洋服地ではクレープ(フランス語crêpe)と呼ばれます。絹の他にポリエステル、レーヨンなどの素材があります。



丹後ちりめん



京ちりめん(無地)



京ちりめん(柄)



一越ちりめん

伝統的な丹後ちりめん。たて糸に平糸、よこ糸に右撚りの糸と左撚りの糸を1本おきに折り込む。しぼが細かいのが特徴。人形の頭や胴を作ります。

錦紗(きんしゃ)ちりめん

細糸で薄地に織った三越ちりめんを指します。一越ちりめんよりさらにしぼが細かく、薄くしなやかな手触り、光沢が特徴。裏地、人形の着物などに使われます。

綸子(りんず)ちりめん

綾織の表と裏を使って、地に紋を織り出したことで、紋が浮き出して見えます。なめらかで光沢のあるちりめん。

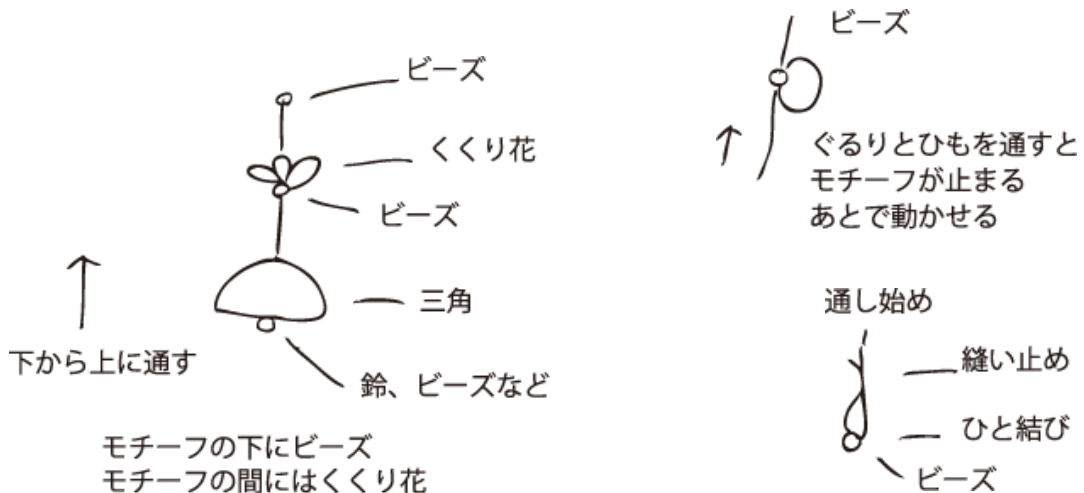
時代ちりめん

通称「江戸ちりめん」、江戸から明治前期にかけて織られた二越ちりめん*7で、糸が柔らかく繊細。江戸時代のものは「幕末裂」と呼ばれますが高価で入手が難しい。

*7 二越ちりめん 撚り糸を2本つつ打ち込んだ(織り込んだ)ちりめん

モチーフの通し方

組み立てる際には、それぞれのモチーフ下にビーズなどを置きます。モチーフ本体にも、ビーズと同じようにぐるりと糸を通します。



つり台

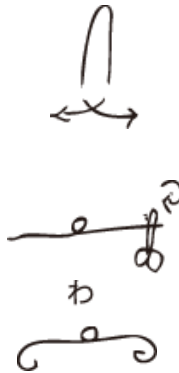
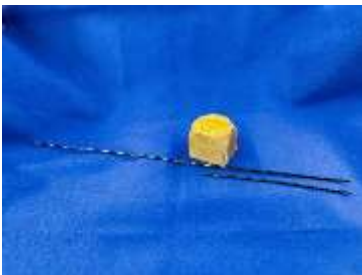
アルミは柔らかく反発力が少ないため、好みの形に曲げられます。自由にデザインしてみましょう。

材料 アルミ線(茶)太さ3.0ミリ 65センチ
10センチ角材 10センチ



①アルミ線を加工する

2種類の寸法に切る
(ペンチで一気に切断)
50センチ×1本、15センチ×1本



中央から二つ折り
端を交差し、左右に広げる

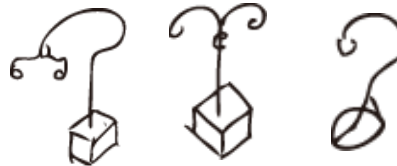
端をつかみ、一気に丸める
【注意】
つかむ場所を変えると、被膜が剥げてキズになる



②角材を加工する

角を落とす
サンドペーパーで表面をなめらかに
好みにニスなどを塗る
ドリルで穴を開ける
(下まで突き抜けない)

③角材にアルミ線をセツト



いろいろなデザイン

協力(画像提供)

一般社団法人酒田観光物産協会 一般社団法人柳川市観光物産協会 稲取温泉旅館協同組合

参考図書

「やさしく作れる ちりめんの飾り物とつるし飾り」編集:森岡圭介 2013年
「季節のつるし飾りとちりめん細工」監修:井上重義 2018年
「福々ちりめん動物」定森朗子、美保、加奈
「12カ月のつるし飾り」博多琴路 平成25年
「ちりめんで作る はじめてのつるし飾り」監修:矢島佳津美
「内藤乃武子のちりめんで作るつるし飾りと袋もの」内藤乃武子 2013年
「はじめてのワイヤークラフト」西野みわ 2005年
「作って楽しむ つるし雛 さげもん・雛のつるし飾り・傘福」下田美知子、森幸枝、酒田商工会議所女性会 2010年
「ちりめんのお針仕事 今も昔も時代をこえて愛される小さな手作り」編者 長瀬聡 2016年